2020年度 事業報告

社会福祉法人 横浜いのちの電話

横浜いのちの電話　　2020年度事業報告

目　次

ご挨拶	1
活動概要	2
電話相談活動	2
研　修	3
活動報告	3
相談員数と受信件数	5
電話受信状況	6
2020 年度　資金収支計算書	9
2020 年度　貸借対照表	9
2021 年度　事業計画	10
2021 年度　資金収支予算書	11
法人組織	12
感謝録（寄付報告）	13
事業支援委員会　感謝録	15
組織図	16

はじめに

2020（令和2）年度の事業活動と収支決算をここにご報告いたします。皆さまからのご支援、ご協力に、心から感謝いたします。横浜いのちの電話も開局40周年の節目の年を迎えることができました。これまで多くの方々にお支えいただき、これまで活動を続けることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

私ども横浜いのちの電話の日本語相談は、「いつでも、誰でも、どこからでも」という電話の即時性と匿名性を保持し、電話で寄り添うことを大切にしながら、認定されたボランティアにより年中無休24時間体制の自殺予防電話相談活動を行っております。また、中南米からの在日外国籍の方々のためのスペイン語、ポルトガル語による外国語相談も同じく認定されたボランティアにより週３日の活動を続けています。さらに心理や法律の電話による専門相談を行っています。

しかし、この1年は、新型コロナウィルス感染防止のため日本語電話相談、外国語電話相談、心理専門相談の一時休止や相談時間の短縮等、いのちの電話の活動を十分に行うことができませんでした。こういう時にこそ多くの方々からの相談を受けたいと思いながらもボランティアの感染も予防しなければならないという思いもあり、理事の方々と相談しこのように判断しました。

40周年の式典、講演会等も中止となりました。その中でも40周年記念コンサート（石田組オールバロック）を実施し、40周年記念誌も発行することができました。

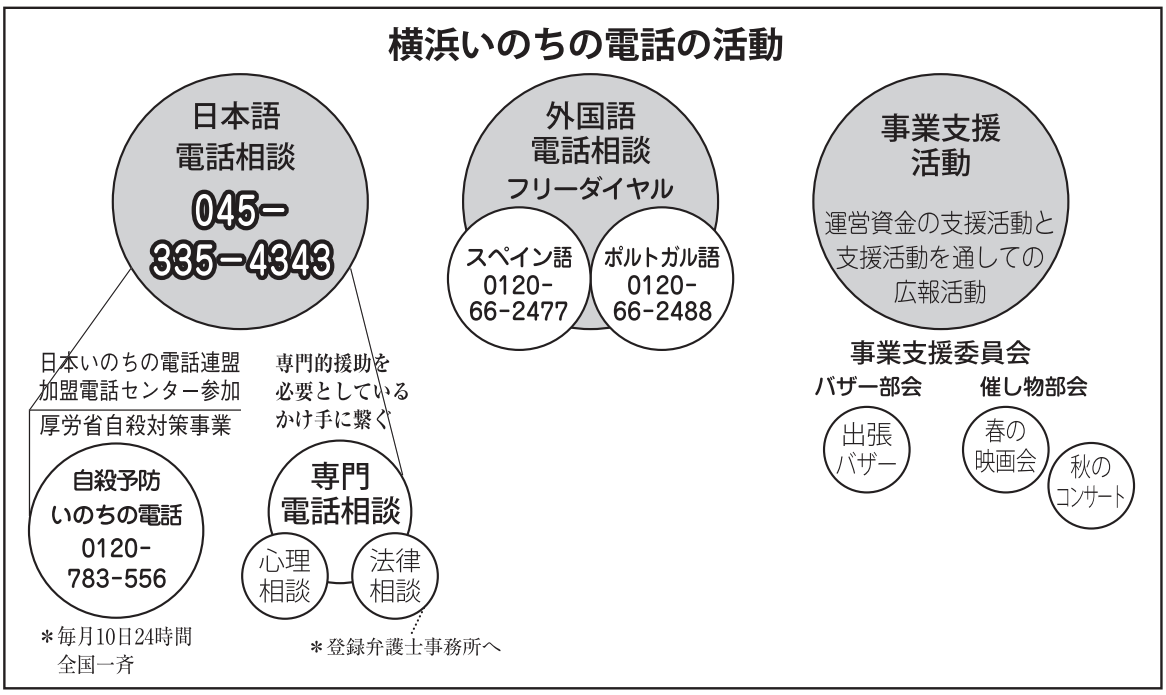
これからも、社会福祉法人としての自覚と責任を担いながら、《いのちを大切にする》市民活動を続けてまいります。常に自殺予防としての電話相談の質を問い直し、「かながわ自殺対策会議」をはじめ県市の行政機関、関係諸団体と連携、協力しながら、生きる力を信じて支え、お一人おひとりの電話に寄り添う、柔軟な自殺予防活動に取り組んでいきたいと思います。

41年目の歩みを始めました。横浜いのちの電話がこれからもより良い相談ができるように、皆様方のご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

2021年7月

社会福祉法人 横浜いのちの電話

理事長　松橋秀之



2020年度　事業報告

活動概要

コロナ感染拡大に伴い、4月8日から5月17日まで全ての活動を休止しました。5月18日の再開後は以下の対応となりました。

（1）電話相談活動

日本語電話相談、心理・法律の専門相談

・5月18日～6月 7日：平日（月～金） 10時～16時
・6月 8日～6月30日：土日も含めて　10時～16時
・7月 1日～　　：A帯（8時）～D帯（22時）
・心理専門相談　：7月から1人担当で実施
・フリーダイヤル：7月10日から実施

外国語電話相談

・5月18日～　通常通り

（2）研修

日本語研修

・養成研修：2020年度は中止
・地区別グループ研修：7月～12月実施
・全体研修：第1回「インターネット相談の意義、今後の展望について」5月30日（土）は中止
・継続スーパービジョン：8月～3月実施

外国語研修

・養成研修：6月～3月実施
・スーパービジョン：6月～3月実施

（3）相模原市自殺予防電話相談受託業務

4月～9月実施（受託契約終了）

（4）相談員委員会

6月、7月、9月～12月実施

（5）事業支援委員会

・バザー：中止
・3月12日春の映画会「日日是好日」さくらプラザホール：中止

電話相談活動

※統計数字は日本いのちの電話連盟にあわせて年（1月～12月）で集計しています。

日本語電話相談

1．一般電話相談　045-335-4343

（1）年中無休24時間体制を理念として電話相談活動を継続したが、コロナ禍により休止や時間を短縮しての活動を余儀なくされた。
（2）実働相談員168名（2019年173名）が原則として月2回の電話担当に入り、10,730件（2019年21,600件）の電話相談を受信した。

2．専門相談（心理･法律）

専門的援助を必要としているかけ手に対しては、一般相談から専門相談につなぎ対応した。
受信件数　心理専門相談　102件（2019年252件）　法律相談　18件（2019年37件）

3．フリーダイヤル「自殺予防　いのちの電話」　0120-783-556

（1）厚生労働省の自殺防止対策事業（自殺防止対策事業補助金交付）である「自殺予防いのちの電話」に引き続き参加し、毎月10日フリーダイヤルで相談を受けた。
（2）県及び市町村に、ポスター、カード配布等の広報活動を行った。
（3）受信件数291件（2019年675件）うち自殺に関する件数76件（2019年156件）。担当した延べ相談員数66名（2019年156 名）

外国語電話相談　LAL（Linea de Apoyo al Latino/Linha de Apoio aos Latinos）

一般電話の他にフリーダイヤル相談も実施している

（1）主に中南米からの外国籍県民を対象に母語（スペイン語・ポルトガル語）のメンタルヘルス相談を神奈川県と横浜市の援助により実施した。相談員の国籍は8ケ国で、担当した相談員数は48人（うち日本人12名）である（2019年は8ヶ国で、担当した相談員数は48人（うち日本人10人））受信件数912件（2019年1,135件）。スペイン語374件（2019年481件）、ポルトガル語538件（2019年654件）。
（2）開局（1993年9月1日）以来の受信件数は29,858件である。

研　　修

日本語電話相談

1. 養成研修

（1）全国的に応募者の減少がみられる中、積極的な広報活動を実施し、2019年度は19名（2018年度26名）の応募があった。

（2）コロナウイルスの感染拡大に伴い、電話相談活動をはじめ、2020年3月中のすべての活動を休止したことに合わせ、2020年3月に予定していた応募者面接を延期した。

（3）4月、緊急事態宣言発令により、今後完璧な感染対策の見通しが立たず、2020年度の養成研修を中止することを決定した。

（4）8月、2019年度応募者の面接を行い、「応募動機」「自分史」の応募書類の審査も併せ、10名（2018年度22名）を選考した。

（5）1月に入り、養成生10名に2021年度の研修スケジュールを送付し、養成研修の参加を再度確認。結果、諸々の事情で2名の辞退者があり、8名が2021年度養成研修にすすむことになった。

2．継続研修

相談員は、認定された後も引き続き各種研修が義務付けられている。相談員として良き聴き手となるためには研修は必修である。しかし、2020年度はコロナウイルス感染拡大に伴い4～6月、1～3月は、初任者研修、地区別グループ研修共に休止した。

（1）初任者研修

認定された直後の相談員を対象に、1年間、月1回の研修が義務づけられている。

2020年度は、実施できなかった月もあり、2021年度に持ち越して、研修を継続することになった。

（2）地区別グループ研修

相談員は15の地区別グループのいずれかに所属することとしており、毎月1回、研修を実施した。グループは良き聴き手となるための学びを深めると共に、相談員の支えあいの場となっている。

（3）全体研修

相談員が幅広い知識を習得することで、より良い相談活動が出来るように、毎年、講義内容を精査し研修を企画している。2020年度も「ウィリング横浜」（上大岡）において、下記の通り2回予定したが、コロナ禍で5月に予定していた全体研修は中止した。

第1回「インターネット相談の意義、今後の展望について」5月30日（土）14:00～16:00

講師　伊藤　次郎氏　NPO法人OVA代表理事　　＊中止

第2回「電話相談の不易流行～COVID-19の時代に」11月21日（土）14:00～16:00

講師　逸見　敏郎氏　立教大学教授

（4）継続スーパービジョン

電話相談を熟知した6名のスーパーバイザーによるスーパービジョン（2時間）を、98名（8月～3月間の実施数）に対して実施した。（2019年度129名）

3．研修担当者

（1）研修委員会

相談員養成研修、相談員継続研修など研修全般にかかわる内容について、企画、提案、課題対応を行うために6回開催した。

（2）研修担当者養成研修

2020年度は実施しなかった。

外国語電話相談

1. 養成研修

（1）相談員養成研修はスペイン語・ポルトガル語ともに6月から12月まで24回の講義（理論・ロールプレイ）、1月から3月まで電話インターン研修を実施した。

（2） 研修参加人数は4名, その全員（スペイン語3名、ポルトガル語1名）が認定された。

国籍はブラジル1名、ボリビア1名、アルゼンチン1名、日本1名である

2．継続研修

相談員継続研修では、相談員が組織の一員として活動していることへの理解を深めることを目的に、心理学のテーマに基づいたグループワークを多く実施した他、対応の難しい相談の事例検証や、対応のテクニックや心構えを振返るスーパービジョンを行いながら、相談対応の改善を図った。その他研修担当による個人またはグループでのスーパービジョンを計27回実施した。

活動報告

対外活動

（1）日本いのちの電話連盟社員総会、事務局長会議は中止となった。オンラインで3月12日（金）に開催した関東ブロック会議に理事長と事務局長が出席した。

（2）官民共催の「AIDS文化フォーラムin横浜」の委員として、理事長が第１回組織委員会（4月6日）出席した。

（3）神奈川県被害者支援連絡会定期総会（6月書面開催）に理事長が会員として出席した。
（4）「かながわ自殺対策会議」（8月、2月書面開催）に理事長が委員として出席した。
（5）秦野市自殺対策協議会（12月23日）に事務局長が委員として出席した。
（6）相模原市自殺対策協議会（2月書面開催）に研修委員長が委員として出席した。
（7）受託事業である相模原自殺予防相談業務を毎日曜午後5時から10時まで実施した。（9月末をもって契約終了）
（8）川崎いのちの電話事務局と情報交換を行った。
（9）毎年9月10日に実施している、ＪＲ東日本・川崎いのちの電話と共催で横浜駅での「自殺予防いのちの電話」のＰＲチラシの配布（連盟主催）、及びかながわ自殺対策会議のメンバーとしてＪＲ横浜駅及び淵野辺駅構内で自殺防止啓発のチラシの配布は実施されなかった。

LAL関連の対外活動

（1）新型コロナウィルス感染拡大に伴い、在東京ブラジル領事館で4月24日にスタートされた電話サービス「心の悩み相談」の対応に協力依頼を受け、7月7日まで4名の相談員が協力活動に参加した。
（2）東邦大学医学部精神神経医学部の主催により、群馬県太田市の日伯学園にて在日ラテンアメリカ人の教育者を対象に「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」をテーマに講演会・心理相談会（8月23日）に参加し、通訳と広報活動を行った。
（3）「神奈川県立地球市民かながわプラザ」主催の、第5回外国籍県民相談等に関する研修会（2月24日）に、LAL養成研修担当者が「困っている人、悩んでいる人に寄り添う」をテーマに講演者として参加した。
（4）「公益財団法人海外日系人協会」主催の「在日日系人のための生活相談員セミナー」（2月27日）に、LALコーディネーターが在日日系人を中心とした外国人の心の相談内容について講義を行った。
（5）かながわ国際交流財団主催の「コロナ禍において、身体と心の健康を守るには？」をテーマに開催されたオンラインセミナー（3月14日）にLALコーディネーターが参加した。神奈川県在住の外国人約15名とコロナ禍によって直面している様々な問題について意見交換を行った。
（6）在東京ブラジル総領事館市民評議会に、外国語相談LALコーディネーターが毎月参加した。ブラジル人支援NGOや領事館主催のセミナー・イベントに参加し、交流を深めた。

相談員委員会

1．相談員委員会定例会

相談員委員会は、相談員の継続研修を行う各地区別グループから選出された相談員委員会委員、事務局長、研修委員会の委員で構成され、原則として毎月第1土曜日　13：30～15：30　開催し次の活動を行った。（6月、7月、9月～12月の6回開催）

（1）相談活動における連絡・報告を通じて、相談員間の情報の共有を行った。
（2）相談員として必要な基本的な心構え及び組織の一員として活動することを適宜、再確認し合った。
（3）電話相談活動におけるいろいろな課題について話し合い、相談環境の向上を図った。
（4）Ｗｅｂ担当登録に関して移行時期も含め検討を重ね、2月から稼働開始した。

２．研修・行事の担当

相談員は組織の構成員でもあるため、全体研修や新年会などの行事の準備・進行をそれぞれ地区別グループが担当することになっているが、2020年度は11月に開催された全体研修のみを担当した。

３．相談員のつどいの開催

毎年開催している「新年会」と「相談員のつどい」は実施出来なかった。

事業支援委員会

横浜いのちの電話の活動をより社会に広め、運営資金を得ることで事業を支援するために、次のような活動を実施し、法人会計へ200万円を繰り入れた。また、このような支援活動を通して、横浜いのちの電話の支援と協力をお願いする広報活動を行った。会員数約60名。

1．バザー部会

（1）コロナ禍のため会員の仕事会活動を月1～2回に縮小し、バザー商品を製作した。
（2）出張バザーがコロナ禍のため開催されなかったが、相談員・支援会員が協力して購入した。特にマスク商品が売れた。

2．催し物部会

（1）秋の催し「石田組オールバロック　弦楽アンサンブル」
2020年9月30日（水）　18：30～20：30 於：関内ホール
チケット売上467枚　　当日入場者460名（含招待者）
（2）春の映画会「日日是好日」
2021年3月12日（金）　第1回目14：00～15：40　第2回目18：30～20：10
於：さくらプラザホール　＊新型コロナウイルス感染症の拡大にともない中止

３．財政支援部会

2020年3月より活動を休止

広報委員会

広報「横浜いのちの電話」　99号（5月）・100号（11月）を発行した。

事業報告書の発行　（7月）

「2019年度事業報告」を発行した。

40周年記念誌の発行（2月）

40周年記念事業として、式典は中止となったが、記念誌を発行した。

Ｗｅｂ担当登録へ移行

2018年6月の相談員委員会で提案があり、その後ワーキンググループを設置して検討を重ね、2021年2月より従来の紙面からＷｅｂによる担当登録へ移行した。

ボランティア間の交流

横浜いのちの電話では、日本語相談・外国語相談・事業支援ボランティア・特別技能ボランティアが活動しており、単独または合同での場を設け、相互の交流を深めている。

（1）外国語電話相談員交流会（オンライン）　6月27日（土）10：00～12：00　20名
（2）外国語電話相談員クリスマス会（オンライン）12月7日（土）19：30～21：00　9名
（3）新年会　中止
（4）日本語電話相談員の集い　中止

募金活動

横浜いのちの電話の活動のために多くの維持会員・賛助会員から寄付をいただいた。

寄付金収入合計　9,058,237円　（2019年度7,477,379円）

維持会費417件（個人385件 団体 8件 法人24件）　2,416,500円（2019年度2,405,000円）
一般寄付511件（個人422件 団体47件 法人42件）　6,641,737円（2019年度5,072,379円）

神奈川県地域自殺対策強化交付金事業

神奈川県より200万円の神奈川県地域自殺対策強化交付金事業補助金の交付を受け、主に相談員の研修にあて、相談対応の質の向上及び改善につなげる等、自殺防止対策のために使用した。

しかし、コロナ禍により活動休止期間があったため研修が計画通りに実施出来ず、最終的に172万6千円の交付となった。

相模原市自殺予防電話相談業務を受託（2013年度より2020年度上期まで活動）

（1）相模原市は、自殺総合対策の一環として、「自殺予防電話相談業務」を実施している。一人で抱え込まず相談する中で一緒に生きる道を探す一助とし、相談者の苦悩の実態を把握することで、自殺総合対策に役立てることを目的としている。
（2）横浜いのちの電話では相模原市から業務委託を受け、毎週日曜日（年末・年始を除く）の午後5時から午後10時まで、その相談業務を担っている。（2020年度実績　26日間）
（3）相談内容
　自殺に追い込まれそうな人の相談、大切な家族等を自殺で亡くした遺族の相談、不安・孤独・絶望に悩んでいる人の相談等
（4）当業務受託は、2020年9月末をもって終了した。

相談員数と受信件数

相談員数

日本語相談		203 名
専門相談	心理相談	16 名
	法　　律	4 名
外国語相談		48 名

受信件数

日本語相談	実相談数	10,730 件
	（うち自殺志向）	1,020 件
	（うち自殺予防フリーダイヤル）	291 件
専門相談	心理相談	102 件
	法　　律	18 件
外国語相談	スペイン語	374 件
	ポルトガル語	538 件

受信状況の推移

年度		日本語（件）	外国語（件）
2010	4~3 月	22,067	1,429
2011	1~12 月	22,051	945
2012	1~12 月	21,526	950
2013	1~12 月	21,728	792
2014	1~12 月	21,509	1,126
2015	1~12 月	21,256	1,179
2016	1~12 月	21,306	1,306
2017	1~12 月	21,372	1,957
2018	1~12 月	21,369	1,652
2019	1~12 月	21,600	1,135
2020	1~12 月	10,730	912

電話受信状況　相談データ

【電話相談の状況】

1. 日本語電話相談　年代別・男女別受信件数（図1，表1）

2020年の受信件数は、10,730件と昨年の21,600件のほぼ半数となった。新型コロナウイルス感染拡大のため3月から5月上旬まで活動停止し、再開後も活動時間短縮の影響が現れている。コロナ禍で活動自粛の相談員もいるため、実働数も減少している。男女別では、女性（59.1%）が約６割を占めている傾向は変わりがない。年代別では男女共に60代が最多で、それに40代、50代もほぼ近付いている。匿名性を尊重しているため、年齢不明が４割近くとなっているが、年代がわかる受信件数6526件のうち、10代以下（2.0%）、20代（5.8%）と若者からの相談件数は増加していない。一方で、40代（21.0%）、50代（24.2%）、60代（31.2%）の占める割合は高い。

2. 日本語電話相談　内容別受信件数（図2，表2）

内容別では、「精神」が最多（24.0%）で、人生（20.2%）、「家族（親族を含む）」（15.2%）、「対人」（9.6%）の順となっている。それぞれの内容では、「精神」は病気に関するものが、「人生」では生き方、生きがいや孤独が多い。「家族（親族を含む）」では不満、介護、子育てに加えて虐待、近親姦も増えている。「対人」では、不和・トラブル,ハラスメント・いじめが多くなっている。年代別に見ると、30代から50代にかけては「精神」が最も多くなっているのに対し、10代以下は「家族」、20代は「男女」、60代以上は「人生」が最も多くなっており、若年層と高齢層での違いが見受けられる。

3. 日本語電話相談　年代別受信件数と自殺志向率（図3，表3）

受信件数に対する自殺志向数は1,020件で、自殺志向率は9.5%で昨年とほぼ同じであった。年代別では、40代、50代、30代の順で自殺志向件数の割合が高くなっている。一方、自殺志向率では、40代、30代、20代の順で高くなっており、60代、10代の順で低くなっている。男女別では、女性のほうが自殺志向率はわずかに高くなっているが、年代別にみると男性が40代、70代以上、30代が高いのに対し、女性は20代が最も高く、次いで30代、40代となっており、男女差が見受けられる。

4. 日本語電話相談　内容別受信件数自殺志向率（図4，表4）

内容別の自殺志向件数は、「精神」、「人生」、「家族」の順で高くなっている。また自殺志向率は、精神（14.3%）、経済（14.2%）人生（12.6%）の順となっており、受信件数としては少ない「経済」の自殺志向率が高くなっている。自殺志向のほとんどは自殺念慮であるが、より危険度の高い「予告・通知」の33件中「人生」が18件、「精神」が7件となっている。また、「実行中」の2件は「精神」となっており、これら項目は、危険度が高いものが多く含まれているといえる。

5. 日本語電話相談　フリーダイヤル（図5，表5）

毎月10日、フリーダイヤルで全国のセンターとオンラインでつなぎ、日本全国からの電話を受けている。男性からの相談件数がやや多いのは、全国の状況と合致している。また、自殺志向率は通常ダイヤルと比べ高くなっている。女性が通常電話（9.5%）に比べ、29.3%と高くなっている。内容別でも受信件数は通常電話と同様の傾向であるが、自殺志向率では通常電話が「精神」、「経済」、「人生」の順であるのに対し、フリーダイヤルでは「経済」、「職業」、「精神」の順となるなど違いが見受けられる。

6. 心理専門電話相談（図6，表6）

2020年の 心理専門相談も、コロナ禍により、一時相談活動を休止したり、相談担当の人数縮小により、相談数が昨年の半分以下となっている。内容別では「精神」が全体の9割弱となっていることは、例年と変わらない。「精神」の相談者の病気や体調の悪化がみうけられる。一般相談からの紹介数が減っていることや、紹介されてもなかなか新しい相談者に繋がっていないことが残念である。

7. 法律専門電話相談（図7，表7）

相談件数は昨年のちょうど半数となっている。新型コロナウイルス感染予防のため、一般相談の受信件数が減り、紹介件数が少ないことが大きく影響している。内容別では「家族・扶養」、「離婚」、「相続・贈与」といった家族間でのトラブルが半数以上を占める。

8. 外国語電話相談（図8，表8）

コロナ禍により、緊急事態宣言などで電話相談活動の休止の影響があったため、受信件数は前年に比べておよそ20%減少した。全体的には、コロナ禍の様々な影響が外国人労働者を直撃したといえる。失業、人生設計の見直し、将来の見通しが立たないことの不安などでストレス、イライラ、孤独などに悩まされているとみられる。「人生」について件数は増えており、コロナ禍の影響を受けての相談内容が増えた。「夫婦」について件数は倍増した。コロナ禍によって、既に不仲であった関係が悪化したとみられる。「精神・保健」の内容も増加している。「無言」電話の件数は約半分に減少した。「性的いたずら」の電話は日本語で話す場合（男性）がほとんどだった。

日本語電話相談 年代別・男女別受信件数

図1

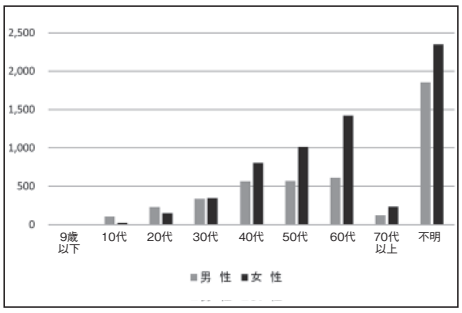


表1

年代別	男 性		女 性		合 計	
	2020年	2019年	2020年	2019年	2020年	2019年
9歳以下	2	1	0	1	2	2
10代	105	218	22	60	127	278
20代	228	406	149	326	377	732
30代	334	722	346	758	680	1,480
40代	564	1,251	805	1,835	1,369	3,086
50代	568	1,620	1,013	1,964	1,581	3,584
60代	611	863	1,422	2,358	2,033	3,221
70代以上	123	179	234	361	357	540
不明	1,854	3,788	2,350	4,889	4,204	8,677
合計	4,389	9,048	6,341	12,552	10,730	21,600

日本語電話相談 内容別受信件数

図2

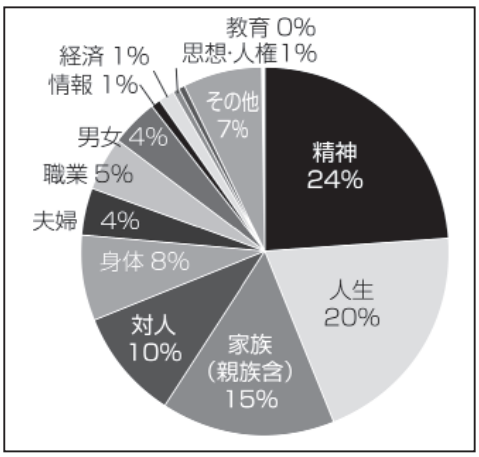


表2

	2020年	2019年	割 合
精神	2,580	5,413	24.0%
人生	2,166	4,490	20.2%
家族（親族含む）	1,627	3,007	15.2%
対人	1,034	2,255	9.6%
身体	812	1,564	7.6%
夫婦	449	852	4.2%
職業	515	973	4.8%
男女	425	837	4.0%
情報	104	188	1.0%
経済	155	285	1.4%
思想・人権	51	181	0.5%
教育	43	71	0.4%
その他	769	1,484	7.2%
合計	10,730	21,600	100.0%

日本語電話相談 年代別受信件数と自殺志向率

図3

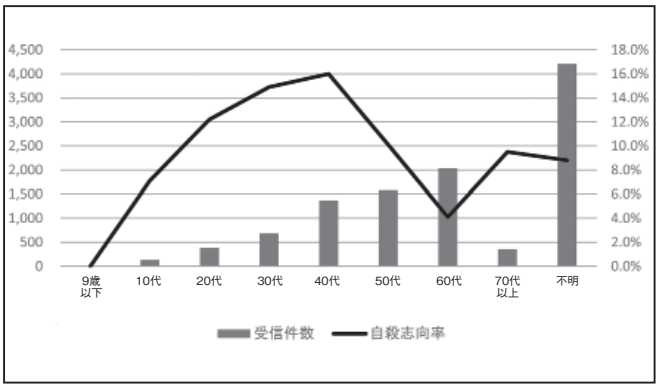


表3

年代別	受信件数	自殺志向件数	自殺志向率
9歳以下	2	0	0.0%
10代	127	9	7.1%
20代	377	46	12.2%
30代	680	101	14.9%
40代	1,369	219	16.0%
50代	1,581	160	10.1%
60代	2,033	83	4.1%
70代以上	357	34	9.5%
不明	4,204	368	8.8%
計	10,730	1,020	9.5%

日本語電話相談 内容別受信件数と自殺志向率

図4

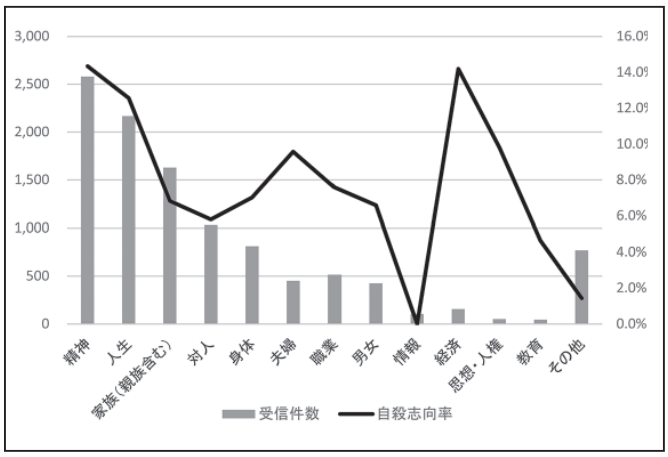


表4

内容別	受信件数	自殺志向数	自殺志向率
精神	2,580	370	14.3%
人生	2,166	272	12.6%
家族（親族含む）	1,627	111	6.8%
対人	1,034	60	5.8%
身体	812	57	7.0%
夫婦	449	43	9.6%
職業	515	39	7.6%
男女	425	28	6.6%
情報	104	0	0.0%
経済	155	22	14.2%
思想・人権	51	5	9.8%
教育	43	2	4.7%
その他	769	11	1.4%
合計	10,730	1,020	9.5%

日本語電話相談フリーダイヤル

図5

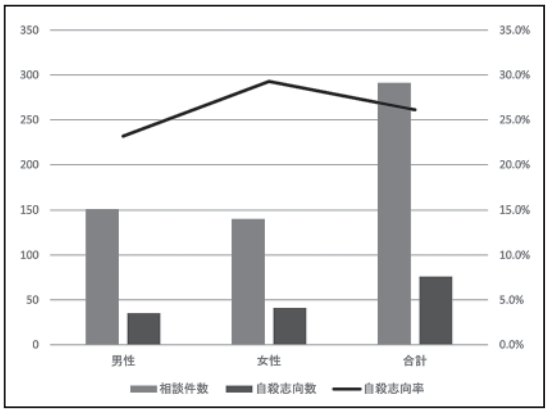


表5

	男性	女性	合計
相談件数	151	140	291
自殺志向数	35	41	76
自殺志向率	23.2%	29.3%	26.1%
平均通話時間	19.1分	24.7分	21.8分

心理専門電話相談・内容別受信件数

図6

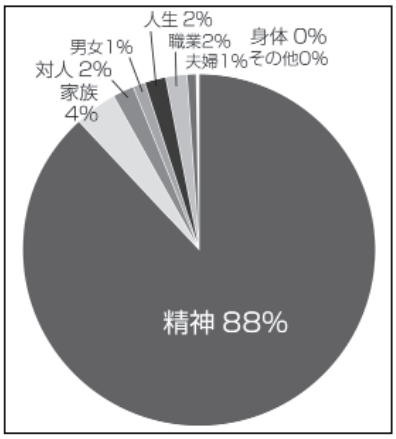


表6

項　目	受信件数	割合
精神	90	88.2%
家族	4	3.9%
対人	2	2.0%
身体	0	0.0%
男女	1	1.0%
人生	2	2.0%
職業	2	2.0%
夫婦	1	1.0%
その他	0	0.0%
合計	102	100.0%

「精神」(90件)の主な内容

生き方不安・孤独	21件
病気悪化・体調	4件
対人関係	25件
職業	11件
家族との問題	25件
自殺願望	4件

法律専門電話相談・内容別受信件数

図7

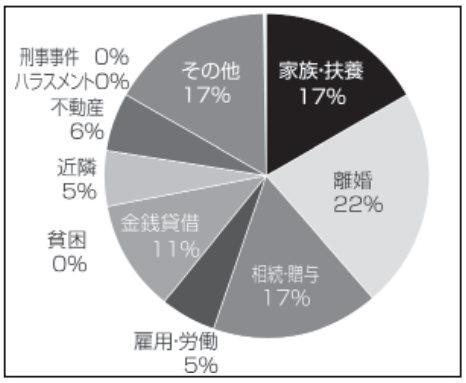


表7

項目	合　計	割合
家族・扶養	3	16.7%
離婚	4	22.2%
相続・贈与	3	16.7%
雇用・労働	1	5.6%
金銭貸借	2	11.1%
貧困	0	0.0%
近隣	1	5.6%
不動産	1	5.6%
ハラスメント	0	0.0%
刑事事件	0	0.0%
その他	3	16.7%
合　計	18	100.0%

外国語電話相談・内容別受信件数

図8

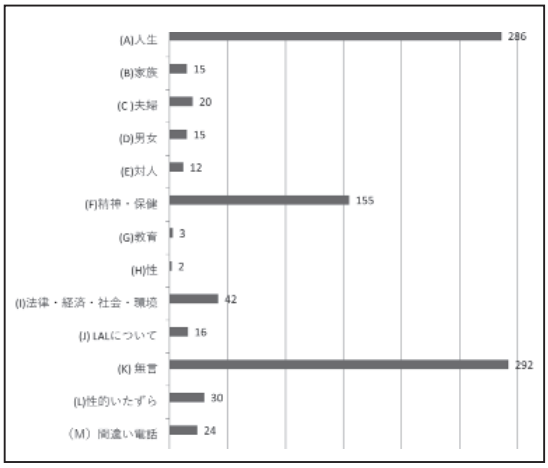


表8

	スペイン語	ポルトガル語	合　計
(A)人生	145	141	286
(B)家族	10	5	15
(C)夫婦	4	16	20
(D)男女	2	13	15
(E)対人	6	6	12
(F)精神・保健	21	134	155
(G)教育	1	2	3
(H)性	1	1	2
(I)法律・経済・社会・環境	15	27	42
(J) LALについて	7	9	16
(K) 無言	132	160	292
(L)性的いたずら	14	16	30
(M) 間違い電話	16	8	24
総件数	374	538	912

2020年度　決算報告

資金収支計算書

(自)2020年4月1日　(至)2021年3月31日　　（単位：円）

勘定科目			予算	決算	差異
事業活動による収支	収入	事業支援委員会収入	3,400,000	2,900,906	499,094
		寄付金収入	6,760,000	9,058,237	△ 2,298,237
		経常経費補助金収入	8,000,000	7,726,000	274,000
		研修事業収入	1,100,000	1,314,000	△ 214,000
		共同募金配分金収入	260,000	250,000	10,000
		委託事業収入	529,620	529,620	0
		雑収入	0	13,140	△ 13,140
		受取利息配当金収入	1,000	33,019	△ 32,019
		事業活動収入計(1)	20,050,620	21,824,922	△ 1,774,302
	支出	人件費支出	9,090,200	8,936,512	153,688
		事業費支出	7,252,250	6,253,758	998,492
		事務費支出	4,369,000	3,978,697	390,303
		事業活動支出計(2)	20,711,450	19,168,967	1,542,483
		事業活動資金収支差額(3)=(1)−(2)	△ 660,830	2,655,955	△ 3,316,785
施設整備等による収支	収入				0
		施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出				0
		施設整備等支出計(5)	0	0	0
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)−(5)	0	0	0
その他の活動による収支	収入				0
		その他の積立金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0
		その他の活動による収入計(7)	1,000,000	1,000,000	0
	支出				0
		その他の活動支出計(8)	0	0	0
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)−(8)	1,000,000	1,000,000	0
予備費支出(10)			0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)−(10)			339,170	3,655,955	△ 3,316,785
前期末支払資金残高(12)			13,191,631	13,191,631	0
当期末支払資金残高(11)+(12)			13,530,801	16,847,586	△ 3,316,785

貸借対照表

2021年3月31日現在　　（単位：円）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	17,645,661	流動負債	798,075
現金預金	15,765,661	未払金	0
未収補助金	1,726,000	預り金	38,075
前払金	154,000	前受金	760,000
仮払金	0		
固定資産	129,983,974	負債の部合計	798,075
基本財産	100,000,000	純資産の部	
定期預金	100,000,000	基本金	100,000,000
その他の固定資産	29,983,974	第1号基本金	100,000,000
器具及び備品	379,150	国庫補助金等特別積立金	256,991
電話債券	890,644	国庫補助金等特別積立金	256,991
相談事業費積立資産	25,082,780	その他の積立金	28,714,180
国際交流積立資産	3,000,000	相談事業費積立金	25,082,780
ブラジルファンド積立資産	631,400	国際交流積立金	3,000,000
		ブラジルファンド積立金	631,400
		次期繰越活動増減差額	17,860,389
		（うち当期活動増減差額）	2,577,153
		純資産の部合計	146,831,560
資産の部合計	147,629,635	負債及び純資産の部合計	147,629,635

監査報告書

社会福祉法人横浜いのちの電話における2020年度の貸借対照表ならびに収支計算書、財産目録などについて監査を実施したところ、事業の運営及び会計上、健全で、かつ公正に処理されているものと認めましたので報告します。

2021年5月13日

監事　野沢　豊㊞

監事　目黒　裕㊞

2021年度事業計画

社会福祉法人横浜いのちの電話は、2021年度も「いつでも、だれでも、どこからでも」の原点に立ち、ボランティアによる自殺予防を中心とした眠らぬ電話相談活動を継続していきます。いのちを大切にする市民（ボランティア）運動として、その輪を広げていきます。2020年度はコロナ禍により、計画の変更を余儀なくされ、まだ収束の見通しが立っていませんが、コロナ禍への対応をしながら、横浜いのちの電話基本理念にもとづき、次のとおり、実施します。

Ⅰ．電話相談事業《電話の即時性をもって匿名を確保し、寄り添う》

1. 2020年度はコロナ禍によりそれまでの24時間活動を8時～22時までの活動にならざるをえなかったが、基本は２４時間、年中無休の日本語相談活動を継続する。深夜帯の相談活動の再開を引続き検討する。
2. 日本語電話相談のうち、専門的援助を必要とするかけ手を対象に、専門相談（心理・法律）を継続する。
3. スペイン語、ポルトガル語を母国語とするかけ手を対象に外国語電話相談活動（スペイン語・ポルトガル語）を継続する。

Ⅱ．電話相談員の養成とスキル向上《ひとりの人間としての成長を図る》

1. 電話相談員を育成するために電話相談員養成研修（1年間）を実施し、適性者を認定する。
2. 電話相談員のスキルの向上の研修を実施する。
（1）日本語相談
①専門家による個人スーパービジョン（全員年１回必修）
②地区別グループ研修
③全体研修
（2）外国語相談
①専門家による講座（年５回程度）
②個人スーパービジョン（全員年１回以上必修）
3. 研修担当者養成研修を実施し、研修担当者を育成する。
4. 相談員が活動しやすくなるよう福利厚生の充実やWeb担当システムの更なる充実をはかるなど相談環境の改善に努める。

Ⅲ．ボランティアの募集《自発的に参加するボランティアによって支えられている》

1. 日本語電話相談員、外国語電話相談員及び事業支援ボランティアを積極的に募集する。
2. 日本語電話相談については24時間体制を維持するために、また外国語相談の継続のために、マスメディア、各自治体及び他機関の協力を得る。

Ⅳ．個人・法人の自覚と責任を持ち、運動体として活動する

1. 広報活動
（1）広報誌「横浜いのちの電話」を発行する（5月・11月）。
（2）「事業報告書」を作成し、発行する（7月）。
（3）ホームページを常に更新し、充実させる。
（4）パンフレット、カード等の配布資料を作成し、有効に活用する。
（5）外国語電話相談を必要とする人たちへの広報活動及び支援者の輪を広げる。
①各種雑誌への掲載や、ホームページを用いて広報活動を積極的に行う。
②国際交流協会、各国大使館・領事館及び外国人援助団体などとの連携を深める。
2. 事業支援者の確保と拡大
（1）事業支援委員会のもとに設置した財政支援部会を基軸に積極的に募金活動及び企業団体への働きかけを推進する。
（2）維持会員・賛助会員の継続及び新規会員の加入に努める。
（3）法人・団体の維持会員の新規加入に努める。
（4）寄附金の拡大を図るため、寄附者に対する税額控除制度（国・県・市）対象法人としてのメリットを継続的にＰＲし、認可団体としての継続・維持に努める。
（5）ライオンズクラブ、ロータリークラブ、及び諸団体との連携を深め、協力を依頼する。
3. 事業支援委員会活動として、コンサート及び映画会を実施する。またバザー部会では手作り作品の販売に努める。
4. 社会福法人制度改革に伴う法人としての体制確立と適正運営の維持・強化。

Ⅴ．県・市等行政及び他機関との連携《社会との協働》

1. 日本いのちの電話連盟及び加盟電話センターと連携、協力する。
（1）2021年度厚生労働省補助事業による自殺予防活動の一環として、毎月10日に実施される連盟主催の自殺予防フリーダイヤルへ継続参加する。
2020年度コロナ禍対応として開始された毎日フリーダイヤルへの参加を検討する。また、ナビダイヤル導入の再

検討を行う。
（2）研修、広報活動など加盟電話センターと連携、協力をする。
2. 毎年9月10日の「世界自殺予防デー」に合わせ、神奈川県と横浜市の自殺対策街頭キャンペーン及びＪＲ東日本と「自殺予防いのちの電話」フリーダイヤルの駅頭告知活動をそれぞれ横浜駅等にてカード配布のＰＲ活動を実施する。
3. 神奈川県下の川崎いのちの電話と連携を深める。
4. かながわ自殺対策会議、よこはま自殺対策ネットワーク協議会、相模原市自殺対策協議会、秦野市自殺対策推進委員会、湯河原町自殺対策推進協議会のメンバー、として、神奈川県・横浜市・相模原市・他の市町村及び関連機関との連携を深め、自殺防止活動に参画し、寄与する。
5. エイズ文化フォーラムｉｎよこはまに組織委員として参加する。
6. 外国語電話相談について、
（1）浜松いのちの電話の外国語電話相談との交流を深める。
（2）リニューアルを行ったホームページにより一層の周知を図る。
（3）南米出身者のコミュニテイーや職業紹介機関を通じてPRの促進を図る。

Ⅵ. その他

西部児童相談所その他再整備工事に伴い、６月から翌年３月までの間、仮移転先（隣接する旧看護専門学校棟）へ一時的に転居するが、電話相談事業や当センターの運営に極力支障をきたすことがないよう実施する。

資金収支予算書

（自）２０２１年４月１日　（至）２０２２年３月３１日

（単位：円）

勘定科目			予算
事業活動による収支	収入	事業支援委員会収入	3,908,000
		寄付金収入	6,760,000
		経常経費補助金収入	8,000,000
		研修事業費収入	2,980,000
		共同募金配分金収入	270,000
		受託事業収入	0
		雑収入	0
		受取利息配当金収入	1,000
		事業活動収入計(1)	21,919,000
	支出	人件費支出	9,125,000
		事業費支出	12,858,200
		事務費支出	3,556,000
		事業活動支出計(2)	25,539,200
	事業活動資金収支差額(3)=(1)−(2)		△ 3,620,200
施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計(4)	0
	支出	施設整備等支出計(5)	0
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)−(5)		0
その他の活動による収支	収入	事業区分間繰入金収入	1,500,000
		拠点区分間繰入金収入	4,046,000
		その他の積立金取崩収入	3,800,000
		その他の活動による収入計(7)	9,346,000
	支出	事業区分間繰入金支出	1,500,000
		拠点区分間繰入金支出	4,046,000
		その他の活動支出計(8)	5,546,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)−(8)		3,800,000
予備費支出(10)			0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)−(10)			179,800

前期末支払資金残高(12)	13,530,801
当期末支払資金残高(11)+(12)	13,710,601

法人組織

法人役員（2021年7月1日現在）

理事長	松橋　秀之	社会福祉法人のぞみの家理事長
理　事	甲斐田博高	横浜いのちの電話相談員委員会委員長
	笠井　政記	横浜いのちの電話 事業支援委員会委員長
	十川いづみ	横浜いのちの電話 研修委員会委員長
	田口　　努	公益財団法人日本ＹＭＣＡ同盟 総主事
	千木良　正	小長井・千木良・渡邊法律事務所 弁護士
	坪内　大輔	横浜いのちの電話 広報委員会委員長
	西﨑　猛之	社会福祉法人鎌倉静養館理事長
	藤井ルッチ	横浜いのちの電話外国語相談総会議長・コーディネーター
監　事	野沢　　豊	元　日本埠頭倉庫株式会社　常勤監査役
	目黒　　裕	社会福祉法人大和しらかし会大和市障害福祉センター松風園統括園長
評議員	石黒　敬史	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会常務理事
	井上　　力	保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会 会長
	佐久間てる美	神奈川県中央児童相談所 所長
	新堀由美子	男女共同参画センター横浜 相談センター長
	竹内　直樹	医療法人横浜いずみ会開花館クリニック 副院長
	永井　　撤	首都大学東京都市教養学部 教授
	濱田　壮久	カトリック末吉町教会 主任司祭
	平野　孝夫	株式会社オリマツ代表取締役社長
	政岡　弘道	宗教法人眞光寺代表役員（住職）
	山田　正夫	神奈川県精神保健福祉センター 所長

法人会議

理事会　第1回　2020年　5月27日
第2回　2020年　10月27日
第3回　2021年　1月26日
第4回　2021年　3月24日

評議員会　定 時　2020年　6月17日

苦情解決制度についてのお知らせ

社会福祉法人横浜いのちの電話が提供するサービスに関わる
苦情に適切に対応するため、苦情解決の仕組みを整えています。

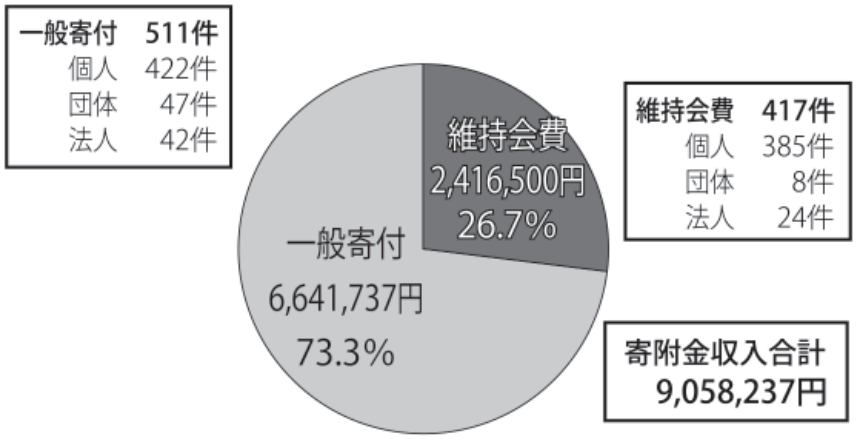
苦情の受付　横浜いのちの電話事務局

第三者委員　小川　恒子（学識経験者）
植田　　薫（弁護士）
岩本　弥生（外国語相談）
永井　　撤（評議員）
松原　康雄（学識経験者）

2020年度感謝報告

横浜いのちの電話は、多くの皆様方の心温まるご芳志により、活動を続けることができています。昨年度もコロナ禍の中ではありましたが、多くの方々や団体、法人などの皆様からご寄付をいただきました。一同、感謝をもって、ここにご報告をさせていただきます。ありがとうございました。

尚、ご芳名につきましては、万全の注意を払ってはおりますが、万が一記載もれや誤字脱字がございました場合は、畏れ入りますが、事務局まで、ご一報いただけますと幸いです。また、個人情報保護上、事前に掲載をご希望なされない方のお名前は掲載いたしておりません。今後、お名前の記載をご希望なされない場合もご一報のほどよろしくお願いいたします。敬称は省略させていただいておりますこと、ご容赦願います。



◎維持会費（個人）

◆ア
阿久津久枝
有田モト子
伊草　淳子
石塚　博子
伊藤　文子
岩下由紀子
植田　雅子
江口　洋子
大久保芳子
大平みちよ
岡本　昂
小畑　克
片山功仁慧
金子　ユミ
加山　潤一
菊地万里子
木村　弘子
久保　言史
小菅　啓子
小松　智子
斎藤　たえ
佐藤喜美恵
◆シ
下村　秀子
鈴木江美子
瀬田　義雄
高須　あい
高橋　恒子
竹谷なつみ
田原　景子
◆テ
鳥海　薫
仲手川徳幸
新村　寛子
野中多津子
花村　節子
相沢　匡
浅岡いつ子
有馬日出子
池田　敦子
石附　峰子
伊藤まさ子
岩橋　圭子
鵜養　宏
海老原弘子
大須賀靖子
大堀セツ子
岡本　連三
小原　勉
加藤　征三
金子佐智子
川崎みどり
木曽美沙子
木村　雅恵
黒部　一允
児玉　王子
小森　詳宏
斉藤みどり
佐藤　光江
茂田　悦子
庄司　恵子
鈴木　祐司
芹澤由紀子
髙田　耕多
高橋　ゆか
田代　良一
田宮　繁子
手塚　正子
◆ナ
永野　肇
西﨑　猛之
野畑　勢津
馬場　泰子
青木　英人
安達　理恵
安蔵　富江
池田　淑美
五十畑誠子
伊藤美華子
岩橋　史明
内田恵美子
江間　敦子
太田　桂子
小笠原佳子
小川　恒子
◆カ
加藤　浩子
金子　由紀
河田　慶子
北　孝史
木本美枝子
桒原　曠子
小林　絹代
小山　裕子
榊原　隆太
佐藤有見子
篠崎　千波
東海林　崇
鈴木　和子
◆ソ
高野　晴子
高橋由美子
田中　巌
◆チ
◆ト
永井　嵜朗
中野　竜子
西嶌　宣雄
野村　重子
Pubill Puig Xavier
青木　佳子
天野　明子
安藤実菜子
井坂　秀一
板坂　光明
井上　順子
岩本　満
打田真理子
◆オ
大塚由香里
岡田　信子
小川由起子
柿沢　純江
加藤　文男
加野　俊恵
河内ゆう子
喜多村光江
清野　陽子
◆ケ
小林田鶴子
近藤　信二
坂齋三枝子
佐藤よし子
島田　裕子
庄子　徳義
鈴木　正子
十川いづみ
高橋知江子
高橋　吉巳
田中三一子
長　一男
東島　昌子
中島　博明
中林　淳子
西谷　大介
◆ハ
原川　博光
青山しのぶ
雨宮　里美
◆イ
石井　保弘
市村　毅
井上美佐子
◆ウ
内山　理恵
大江　美香
大友　順子
岡田　美佐
荻沼　敦子
加行　尚
加藤眞知子
鎌田　麻子
神原　郁夫
木原　サエ
◆ク
毛塚　篤子
小林　信子
近藤　繁子
坂本　良子
佐渡美佐子
島津　直美
白川　啓子
鈴木　リツ
外田　博子
高橋　章
高山　勝則
谷川　雅恵
長南　康子
徳永　敬子
長嶋　君江
中村　和彦
◆ノ
芳賀　朋子
原崎　郁夫
赤池　典子
新井　裕子
飯塚由紀子
石川　章
糸魚川規子
猪俣　清子
植木あい子
梅田　淳子
大久保規矩夫
大貫まち子
岡本　津子
奥田　紀子
樫村かおり
加藤　葉子
上川　定子
◆キ
木原由紀子
草本　和子
◆コ
小林芙美子
◆サ
崎山ますみ
佐野　知子
志村　和子
陳岡　啓子
◆セ
◆タ
高橋久仁江
滝口　久恵
谷沢　栄司
◆ツ
土志田康浩
中島冨美子
那須　泰治
野沢　純子
橋口奈保子
原　寛子
明瀬カズミ
荒川　節子
飯野　満代
石川　充子
伊藤　君恵
今井　迪恵
植木　向子
◆エ
大久保俊夫
大畑みどり
岡本　香苗
越智　雪江
春日　久栄
門川　幸枝
上地　操
紀井　悦子
君塚　展子
楠本　泰子
小出太美夫
小林　葉子
斎藤　悦子
桜本由実子
佐藤　千早
下会所一恵
◆ス
関川　昌子
平　ふじほ
髙橋　恵子
滝沢　潔
谷　隆英
津田　道夫
冨田　修一
長瀬　陽子
◆ニ
野沢　豊
服部千枝子
治田　哲之
秋山　英代
有川紀巳子
家里　敦子
石津　彩子
伊藤　純子
岩澤　敏一
上田　由美
江口チエ子
大久保洋子
大原英里子
岡本　恵子
小貫　洋子
片平光知子
金井　悦子
上村千代子
菊地　綾子
木村　和子
工藤　幸子
古賀　幹章
小林　理枝
齋藤荘之助
指田　京子
澤村　幸子
下村　厚子
椙村　千津
関根　恵子
高島千恵子
高橋　純子
竹内　弥生
種蔵　宜子
綱島　和子
豊田　あや
永田千鶴子
新見　泰代
野田　良信
花立　悦治

◆ヒ　日笠　宏　東　大策　樋口　純子　久野　高雄　菱山　米子　飛弾野育子　百武　紀子
平尾　良子　平賀　祥子　平城　波江　平嶋　丸美　平塚　幸子　平根　寛　平野　敦司　平野　孝夫
平山真佐子　蛭田　典子　広越　昭紀　◆フ　深佐　隆英　深澤　祥江　深澤　良子　福永　牧子
福本　秀子　福山　笑子　藤崎　孝子　藤田　妙子　藤田　久子　藤野　英明　藤吉　康司　藤井　明子
古川恵美子　古川　淳一　古谷　大輔　◆ホ　星野　敦子　堀田　礼子　堀木　一男
◆マ　前田いづみ　牧野　岬子　増田　雅子　松石　裕子　松井　博子　松浦恵美子　松尾恵津子
松岡健二郎　松木　英雄　松下　寿子　松田　英幸　松橋　秀之　松山　幸生　◆ミ　溝幡三紀子
三橋千代子　三橋　三恵　三橋満里子　南　慶子　峯岸　文子　簑島　典代　宮坂　洋子　宮嶋　久枝
宮治　容子　宮田　和恵　◆ム　向野　和雄　村木　順子　村木　正子　◆モ　持川　光代
森　敬子　森田　茂實　森原　久子　森　優美　◆ヤ　柳下　修　八塚　住子　山口　明子
山口いね子　山口　奈巳　山口由美子　山口　善弘　山崎恵美子　山田千賀子　山田真由美　山田　理子
山田　洋子　山本　きく　山元　桂子　◆ユ　結城由美子　弓削寿美子　◆ヨ　吉岡　喜子
吉住真理子　吉田佳南子　吉田　常美　吉田よし子　吉野　典子　吉味　徳子　米田　和彦
◆ワ　若尾　正子　若林　園子　渡辺　詢子　渡辺はるみ　渡辺　静江

◎維持会費（法人）

安楽寺　(株)一幸堂　圓光院　京浜急行電鉄(株)　香象院　廣徳寺　光明院　国分寺
金蔵院　西善院　宗教法人真照寺　荘厳寺　相鉄ローゼン(株)　増徳院　(株)高島屋横浜店
(株)デザインコンビビア　東昌寺　東漸寺　(株)ネピロード　古河電池販売(株)　(株)マルヤホーム　(有)京横興発
(株)横浜銀行本店　(社)横浜市医師会

◎維持会費（団体）

ｶﾄﾘｯｸ国際協働会　神奈川県神社庁　神奈川県精神科病院協会　鎌倉恩寵教会　杉山神社幼稚園　蒔田教会　横浜菊名教会壮年会
ﾚﾃﾞﾝﾌﾟﾄﾘｽﾁﾝ修道院

◎一般寄付（個人）

◆ア　相沢　匡　青木　英人　青山しのぶ　赤堀　仁美　明瀬カズミ　秋山　英代　阿久津久枝
浅岡いつ子　雨宮　里美　新井　裕子　荒川　節子　有田モト子　安藤　浩美　◆イ　飯塚由紀子
飯野　満代　池田　敦子　石井　保弘　石川　充子　石塚　博子　石附　峰子　五十畑誠子　板坂　光明
糸数冨美江　イノウエ　井上美佐子　井上　洋子　猪俣　清子　今井　迪恵　岩澤　敏一　岩橋　圭子
岩橋　史明　岩本　満　◆ウ　植木あい子　植木　向子　植田　茂子　鵜養　宏　内田恵美子
打田真理子　内山　理恵　浦川富二子　◆エ　江口　洋子　江渕　武雄　江間　敦子
◆オ　大江　美香　大久保　明　大久保俊夫　大久保洋子　大須賀靖子　大貫まち子　大野　房枝
大畑みどり　大原英里子　大平みちよ　大屋眞知子　大輪　靖宏　岡田　信子　小川由起子
奥田　紀子　落越　道彦　越智　雪江　尾中　孝子　小貫　洋子　小畑　克　◆カ　柿沢　純江
加行　尚　片柳　時枝　片山功仁慧　加藤　明美　加藤　征三　加藤　浩子　加藤　葉子　金子　由紀
上川　定子　上地　操　亀岡　大造　川﨑　智晴　川崎みどり　◆キ　菊地　綾子　岸　厚子
木島さち子　北　孝史　喜多村光江　木原由紀子　君塚　展子　木村　弘子　木村　雅恵
◆ク　楠本　泰子　工藤　幸子　久米　邦子　黒澤美貴子　黒部　一允　◆コ　小出太美夫
香山　一江　小林　絹代　小林田鶴子　小林　信子　小林芙美子　小林冨美子　小林　葉子　小松　智子
小山　正武　近藤　信二　◆サ　材木　明子　坂齋三枝子　櫻井　恭子　桜本由実子　佐々木伊奈子
指田　文夫　佐藤　高　佐藤　鉄郎　佐藤　典明　佐藤有見子　佐藤よし子　佐渡美佐子　佐野　知子
佐藤　千早　澤村　幸子　◆シ　茂田　悦子　重宗美智子　篠崎　千波　シバグチミワ　柴﨑多希子
柴本　裕子　島田　裕子　島津　直美　シモジョウタクヤ　下村　厚子　下山　弘至　庄司　恵子　庄子　徳義
神馬　純江　◆ス　末吉　玲子　杉原　周治　椙村　千津　鈴木江美子　鈴木　リツ
◆セ　瀬尾　幸男　関川　昌子　瀬田　義雄　◆ソ　十川いづみ　◆タ　高島千恵子
高瀬　道子　髙田　耕多　高橋久仁江　髙橋　恵子　高橋　純子　高橋　恒子　高橋美智子　高橋　雄一
高橋　吉巳　高原　将光　高山　勝則　滝口　久恵　滝沢　潔　武田みどり　竹野内恭子　田中　巌
田中　英雄　田中三一子　田中　洋子　谷口　史明　谷沢　栄司　谷　隆英　◆チ　千々輪悦子
長南　康子　◆ツ　辻川　篤　土屋　郁子　筒井　稲子　つながる募金　坪内　重子　坪内　大輔
鶴田　京子　◆テ　手塚　正子　◆ト　徳永恵美子　外村　敬子　富田　重次　友田　秀子
豊田　あや　鳥海　薫　◆ナ　永井　嵜朗　中川　董子　中島冨美子　中須安見子　長瀬　陽子
中　園子　永田千鶴子　仲手川徳幸　永野　肇　中野　竜子　中林　淳子　中村　和彦　諾浦　静子
◆ニ　西川　綾子　西﨑　猛之　西谷　大介　新堀由美子　丹羽　慧子　◆ノ　野沢　純子
野沢　豊　野畑　勢津　◆ハ　芳賀　宏江　橋口奈保子　花立　悦治　花村　節子　馬場　泰子
濱田　壮久　濱田　静子　原崎　郁夫　原田　勝男　◆ヒ　日笠　宏　東　大策　樋口　純子
久野　高雄　菱山　米子　百武　紀子　平尾　良子　平野　敦司　平野　孝夫　平野　孝使　平本　淳一
広越　昭紀　◆フ　深佐　隆英　深澤　聖子　深澤　祥江　福本　秀子　福山　笑子　福山　清蔵
藤吉　康司　藤井　明子　古川恵美子　古川　淳一　古谷　英之　◆ホ　募金袋　堀田　礼子
◆マ　前田いづみ　牧田きみ子　町田　浩　松浦恵美子　松木　英雄　松田　英幸　松橋　秀之
松村　清司　◆ミ　水谷　透　三橋　三恵　三橋満里子　三宅トキ子　三宅　玲子　宮坂　宏

宮坂　洋子　宮崎　恭子　宮田　和恵　◆ム　村田　貴子　◆メ　目黒　裕
◆モ　森　敬子　森原　久子　モリハルミ　森　優美　◆ヤ　屋嘉部路代　矢谷安紀子
八塚　住子　山口いね子　山口　幸子　山口　善弘　山崎恵美子　山田千賀子　山本　きく　山元　桂子
◆ユ　結城由美子　湯本　真一　◆ヨ　横田カツ子　吉田　常美　吉田よし子　吉味　徳子
米田　和彦　◆ワ　渡辺　詢子

◎一般寄付（法人）

(株)一幸堂　MKPｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ合同会社　圓光院　(株)ｱｰﾊﾞﾝ企画開発　基督兄弟団　汲沢電設(有)　けやきの森病院
香象院　廣徳寺　金蔵院　西善院　三精会　三精会 汐入ﾒﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸ　生命保険協会
荘厳寺　増徳院　東漸寺　ハニーミルク(株)　(株)マルヤホーム　(有)京横興発　(有)フットフィール　蓮花院

◎一般寄付（団体）

厚木幼稚園　栄光学園愛の運動委員会　海外日系人協会　霞ヶ丘教会　ｶﾄﾘｯｸ藤沢教会福祉部　神奈川県看護協会
神奈川県看護協会 事務局　(公財)かながわ国際交流財団　関東学院六浦中学高校　鵠沼めぐみﾙｰﾃﾙ教会
国際ｿﾛﾌﾟﾁﾐｽﾄ横浜西　在東京ﾌﾞﾗｼﾞﾙ総領事館　桜ヶ丘幼稚園　篠原教会　新横浜教会　捜真女学校
捜真女学校同窓会PTA　茅ヶ崎恵泉教会　日本基督教団清水ヶ丘教会　日本ｷﾘｽﾄ教団逗子教会
日本基督教団横浜港南台教会　日本基督教団田園江田教会　日本基督教団田浦教会　日本ﾎｰﾘﾈｽ教団横浜教会
藤沢教会　藤沢北教会　藤沢北教会婦人会　翠ヶ丘教会　紅葉坂教会　湯河原町長　横須賀学院　横浜海岸教会
横浜指路教会　横浜磯子教会　横浜英和学院　学校法人 横浜学院　横浜共立学園　横浜金港ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌ
横浜雙葉中学高校　横浜南ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ　ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ国際協会330-B地区　ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ横浜泉　ﾚﾃﾞﾝﾌﾟﾄﾘｽﾁﾝ修道院
六角橋教会

＜以上、敬称略＞

2020年度事業支援委員会　感謝録

社会福祉法人横浜いのちの電話の一組織として、バザー・コンサートなどの支援会活動を行いました。その収益を横浜いのちの電話の相談活動の運営資金として協力することができました。活動を支えてくださった多くの方々・団体に感謝いたします。

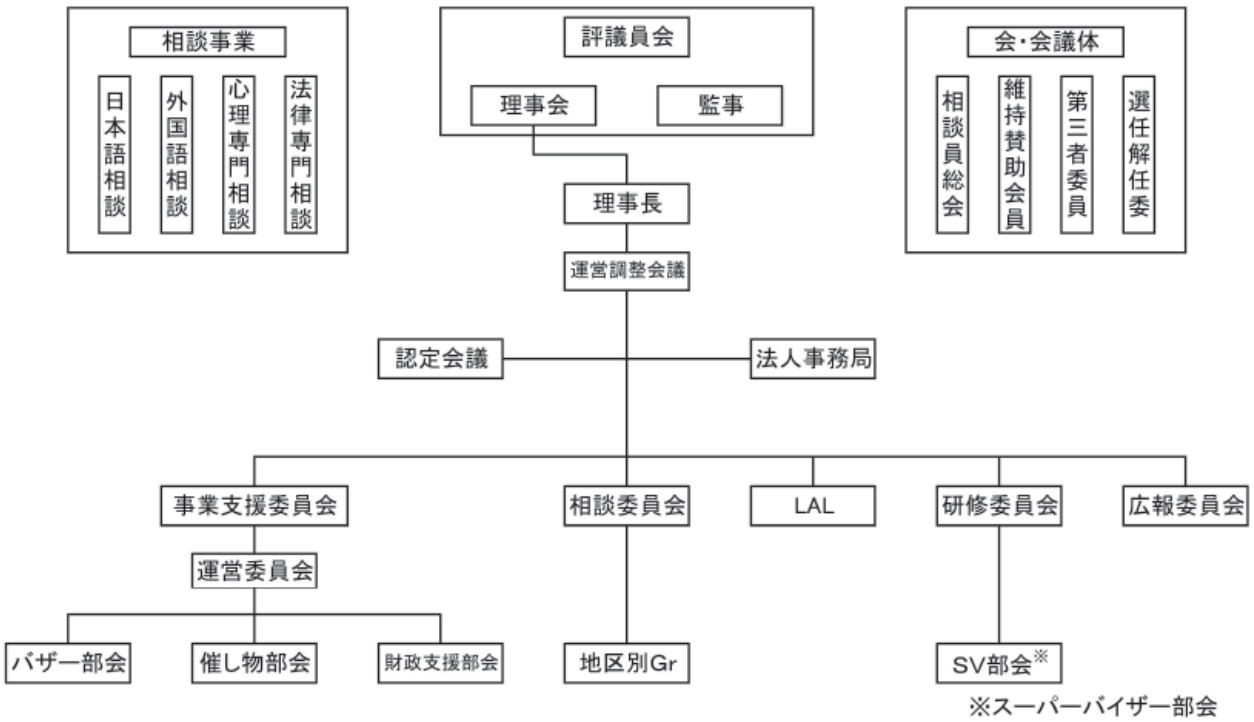
秋のコンサート　広告協賛企業

難波学園横浜調理師専門学校　（株）有隣堂　（株）三彩社
（株）ロイヤルホールヨコハマ　（有）ヨネヤマプランテイション　カサイ企画
（株）ガトーよこはま　（株）オリマツ　横浜醤油（株）
（株）つま正　社会福祉法人 鎌倉静養館　（株）モトマチ
戸越税理士法人　（株）着道楽　（株）白楽花園
（株）高千穂　（株）メリー　（有）光越商事

ご協力いただいたバザー会場

コロナ禍のため、バザー会場での活動を、すべて中止しました。

組織図


相談事業
日本語相談
外国語相談
心理専門相談
法律専門相談
評議員会
理事会
監事
会・会議体
相談員総会
維持賛助会員
第三者委員
選任解任委
理事長
運営調整会議
認定会議
法人事務局
事業支援委員会
相談委員会
LAL
研修委員会
広報委員会
運営委員会
バザー部会
催し物部会
財政支援部会
地区別Gr
SV部会※
※スーパーバイザー部会

支援会ボランティア・資金ボランティアで
ご協力いただけませんか。

お問合せ先　事務局　045-333-6163

支援会ボランティア

横浜いのちの電話の電話相談活動を資金面で支える、支援会ボランティアには、手作り品の製作に励むバザー部会と、映画やコンサートの企画立案をする催し物部会があります。両部会とも、仲間と楽しみながら自分のできることで社会貢献できるのが喜びになっています。

資金ボランティア（寄付のお願い）

眠らぬダイヤルとして２４時間体制で電話相談を続けていくためには、運営資金が必要です。維持会員または賛助会員になって資金面でのご協力をお願いします。皆様の温かいご支援をお待ちしています。ご寄付には税制上の優遇処置があります。

○維持会員（毎年一定額を援助して下さる方）
　個人　年間１口　3,０００円　5,０００円　１０,０００円
　法人　年間１口　１０,０００円　（何口でも可）
○賛助会員（随時、任意の額を援助して下さる方）

○振込先　郵便振替　００２４０－３－１５１９１
　銀行振込　三井住友銀行　横浜駅前支店
　普通口座番号　９３６７３６０
　口座名　社会福祉法人横浜いのちの電話
　※銀行振込の場合は、ご住所をお知らせください。領収書をお送りいたします。

遺贈について

ご遺産や相続された遺産を、横浜いのちの電話のために寄付したいとのお申し出が増えております。手続きなどのご相談は事務局までご連絡ください。なお、ご寄付に対しては相続税法上の優遇措置（寄付金控除）が受けられます。

＜表紙の絵について作者の言葉＞

シコンノボタン（ノボタン科）

夏から冬にかけてあざやかな紫色の花が咲き、長いカーブした雄しべはデリケートで美しいです。紫色はリラックスさせる効果があります。花言葉は「謙虚」「平静」相手の話をまず聴くときは、相手を重んじながら、冷静に聴く姿勢が大切と思っています。（M. K）

いのちの電話は
いつもあなたのそばにいます
一人で悩まずにご相談ください
24時間・年中無休の眠らぬ電話です
名前をいう必要はありません
相談内容の秘密は必ず守ります

日本語電話相談

045－335－4343

外国語電話相談

0120－66－2477 スペイン語

0120－66－2488 ポルトガル語

横浜いのちの電話　2020年度事業報告

発行日　2021年7月
発行者　松橋秀之
発行所　社会福祉法人横浜いのちの電話
〒240-8691
日本郵便（株）保土ヶ谷郵便局私書箱32号
事 務 局　Tel 045-333-6163
fax 045-332-5673
http://www.yind.jp/

この報告書は神奈川県共同募金からの配分金で作成しました。